

令和 5 年 9 月

# 櫻井優祐 学位論文審査要旨

主 査 松 浦 治 代  
副主査 山 崎 歩  
同 片 岡 英 幸

## 主論文

Perceived difficulties and learning needs among acute care ward nurses providing end-of-life care during the COVID-19 pandemic: comparison by years of clinical experience

(新型コロナウイルス感染症パンデミック下における急性期病棟看護師の終末期ケア時の困難感と学習ニーズ：臨床経験年数による比較)

(著者：櫻井優祐、山本美輪)

令和5年 Yonago Acta Medica 66巻 第3号 334頁～344頁

## 参考論文

1. Factor analysis of nursing students' concept of life and death

(死に関する看護学生の死生観についての意識調査)

(著者：櫻井優祐、山本美輪)

平成30年 International Journal of Japanese nursing care practice and study  
7巻 17頁～22頁

# 学位論文要旨

Perceived difficulties and learning needs among acute care ward nurses providing end-of-life care during the COVID-19 pandemic: comparison by years of clinical experience

(新型コロナウイルス感染症パンデミック下における急性期病棟看護師の終末期ケア時の困難感と学習ニーズ：臨床経験年数による比較)

急性期病棟では、急性期の重症患者や周術期にある患者の診察・治療と同時に、終末期患者への医療を提供することもある。本研究は、新型コロナウイルス感染症パンデミック下における急性期病棟看護師の終末期ケア時の困難感と学習ニーズを明らかにすることを目的とした。

## 方法

新人看護師と中堅からベテラン看護師では臨床経験年数の差からケアを行ううえでの困難や学習ニーズが異なると考えられ、対象を初心者／新人看護師) 18名と中堅／熟練看護師(経験年数8年以上) 13名の群に分け、其々の看護師にインタビュー・分析を行った。分析は、テキストマイニングツール「Trend Search 2015」(富士通、東京)を用いて共起分析を実施した。このツールは、「Keyword Associator」と「Concept Mapper」の機能を組み合わせることで、抽出した関連性の高いキーワードをグループ化して平面上に視覚的にマッピングし、これによって関連するキーワードは近くに配置され、直感的に情報全体の概観を把握することが可能である。本研究では、キーワード間の罫線が太く、色の濃さが濃い罫線がより結びつきが強いと、キーワードの重要さを解釈した。また、キーワードの周辺の関連キーワードについても関連のあるものが並ぶため、内容や関連性についても推察した。看護師が終末期ケアで直面する問題やケア実施時の学習ニーズを的確に把握し、可視化した。

## 結果

困難感について、初心者/新人看護師では困難感は<説明><コロナウイルス><家族><医師>の4つグループに分類された。中堅/熟練看護師の困難感は8年目以上では<看護師><ケア><思う><家族>の4つのグループに分類された。困難感では、<家族>のグループでは<医師><DNAR(蘇生措置の見合わせ)>というキーワードが初心者/新人看護師と中堅/熟練看

看護師の両方に現れた。さらに、中堅／熟練看護師では、〈移動〉や〈個室〉というキーワードに表れた。学習ニーズについて、初心者／新人看護師の学習ニーズは〈患者〉〈家族〉〈経験〉の3つのグループに分類された。中堅／熟練看護師の学習ニーズは大きく〈病院〉〈エンゼル〉〈痛み〉の3つのグループに分類された。〈病院〉のグループでは、〈コロナ感染症〉〈流行る〉というキーワードが現れた。

## 考 察

初心者／新人看護師、中堅／熟練看護師の両方の看護師は、患者とその家族の最期の過ごし方について心から気にかけていた。初心者／新人看護師は、終末期患者へのケア方法に不安や戸惑いを感じていた。一方、中堅／熟練看護師は、患者や家族の気持ちを楽にする方法を考え、死後のケアについて具体的に考えられていた。

新人看護師だけでなく、DNARの指示を医師に確認するタイミングやDNARの同意を得るタイミングなど、医師や医療スタッフとの連携において中心的な役割を担う中堅／熟練看護師も、医師との相談や連携に苦勞していることが推察された。特に、その困難さは、初心者／新人看護師には見られないベッドコントロールなどの病棟管理や病棟師長などの役職や、リーダーとしての役割を反映している。中堅／熟練看護師にとっては、〈コロナウイルス感染〉というキーワードが示すように、COVID-19の感染拡大に対する他の病院や施設、他病棟の対策について知りたいというニーズも高かった。中堅／熟練看護師は、面会の制限や家族と患者と一緒に過ごすための個室の確保など、病院や病棟内の環境管理に悩んでいることが推察された。

多くの看護師が患者のケアや病気に対する困難感を表出し、患者や家族とのコミュニケーションや緩和ケアの実践的なスキルに関する教育機会の必要性が示唆された。新人看護師は、緩和ケアやコミュニケーションスキルに関する知識や経験に対する学習ニーズがあった。管理的役職にある中堅看護師は、院内でのルールや指揮系統の確認が重要であり、他院とのそれらの情報共有が必要であると考えていた。

## 結 論

新人、中堅の看護師群も、新型コロナウイルス感染症のパンデミック下で、終末期に面患者、家族をどのようにサポートするかについて混乱していた。新人看護師は、中堅／熟練看護師の多くは、患者・家族のケアだけでなく、病室の環境や家族との時間の過ごし方まで考えていた。新型コロナウイルス感染症のパンデミック下、病棟内での情報共有、院内でのルールや指揮系統の確認、他院とのそれらの情報共有が必要である。